



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

（第四二七号）

秋分 しゅうぶん
九月二十二日

今年米

秋九月。ノロノロ台風十号の影響を心配しましたが、各地で稲刈りが進んでいるようです。今夏、スーパーでは古米が売り切れの状態で、米の品薄が懸念されています。新米が期待されていますが、早場米の伊勢志摩地方では早くも新米が出荷されています。

九月三日、伊勢神宮専用の水田、伊勢市楠部町の神宮神田を訪ねると、一面に黄金色の稲田が広がっていました。こども、台風の被害が無かったことにほっとしました。この日、一般の稲刈りにあたる「抜穂祭」が行われました。このお祭りがあると、私はいつも稔りの秋を実感します。春四月、田に去年採れた籾種を蒔き、そして育った早苗を五月に田植えをします。それが四ヶ月もすると、このように稲穂を垂れるようになるのです。

神宮神田の抜穂祭では、聖なるという意味の忌鎌で刈り取った稲穂を一本ずつ抜いて束ね、内宮用と外宮用の「お初穂」を作ります。それを十月の神嘗祭で神前にお供えするのです。この抜穂祭が神嘗祭に付属する祭典となっているのも、そうした理由があります。今回は取材場所ではなく、一般のところから拝見しました。二十人ほどの方が来ていましたが、話し声が聞こえることもなく、静観していることに驚きました。途中、観光バスが止まり、十数人が下りて見ていました。厳粛なお祭りを目前にすると、静かに見守る気持ちが湧き上がるものなのでしょう。秋の季語に「今年米」があります。今年新しく収穫した米のこと。神社にはお初穂が供えられ、家庭では新米のごはんが食卓に上がります。

念々の白でありけり今年米 清水道子

念々とはいろいろな思いのこと、今年もすでに様々にありましたが、新米の季節を迎えました。

文 千種清美



おかげの里便り

おかげ横丁

○ 第30回 来る福招き猫まつり

おかげ横丁では、今年も全国各地から10,000点の招き猫が集う「来る福招き猫まつり」を開催いたします。

今年は記念すべき30回目のおまつり。

これまでの感謝し、益々の福到来を祈願して「万歳三唱(招)」で盛り上げます。

招き猫たちが万歳をして、一度ならず二度三度と招いてくれる福をお持ち帰りください。

日 時／9月14日(土)～9月29日(日) 9:29～17:29(催しにより異なる)

会 場／おかげ横丁一帯

※主催者側の判断により、一部内容に変更が生じる場合がございます。

● 吉兆招福鈴授与

地元の氏神様でお祓いを受けた福鈴です。作家がデザインしたオリジナルのポチ袋に入れて929名の方に授与いたします。<デザイン：東早苗>

日 時／9月29日(日) 9:29～

場 所／おかげ横丁入口常夜燈前

※雨天の場合、場所が変更になる場合がございます。

● 招き猫巡行

子どもたちが神輿を担ぎ、お囃子と猫舞をしながら大きな招き猫の山車を曳きます。

元気いっぱいにおはらい町を練り歩く姿をご覧ください。

日 時／9月29日(日) 11:29～

場 所／おはらい町通り

※雨天中止

お問い合わせ／おかげ横丁総合案内「おみやげや」電話0596-23-8838

五十鈴塾

○ 「伊勢神宮御厨・御園めぐり」その2

御厨・御園は伊勢神宮の神饌や経営資源などを供給する土地のことで、中世には全国40ヶ国に計600ヶ所以上存在しました。

前回は神宮のお膝元、伊勢市御園町から大湊にかけて存在した「大塩屋御園」に関する古文書を読みましたが、今回は少し離れた北伊勢、いなべ市大安町に存在した「石榑御厨」に関する古文書を読んでみようと思います。

中世の古文書を読めるようになりたいと思っている方、大歓迎!!

日 時／9月30日(月) 13:30～15:00

場 所／五十鈴塾右王舎

講 師／岡野友彦(皇學館大学文学部長)

参加費／一般 1,400円 会員 900円

講座についてのお問い合わせ・お申込み／電話0596-20-8251

五十鈴茶屋

○ 五十鈴茶屋節気菓子

はつ もみ じ
初 紅 葉

伊勢の野山も秋の装いになり、木々の葉が美しく彩り始めました。川面の様子を寒天で表し、伊勢からの秋便りを届けます。

はつ かり
初 雁

「初雁」とは、その年の秋、初めて姿を見せた渡り雁のことです。山芋を使った薯蕷生地で白餡を包み、雁の飛ぶ姿を表しました。

つき よ
月 夜

毎夜少しずつ姿を変える月には、三日月や満月など様々な呼び名があります。こし餡の蒸し羊羹に栗を仕込み、美しい秋の夜空を表しました。